

誇りある山城「ありがとう」

山城9回 田 中 勲

昭和十三年生まれの六十八才ともなれば、早い人には高校生の孫もいるという年令。その孫達の為にも当時の社会情勢を顧みると、政治的にはブルジョア・プロレタリアといったイデオロギーの対立した時代で自民党と社会党の二大政党の時代であり、時の総理大臣は片山哲首相の後を継いで自民党の鳩山一郎首相（三十一年）、石橋湛山首相（三十二年）。対する社会党は鈴木茂三郎委員長、外国ではアイゼンハワー米大統領・ブルガーニンソ連首相。地元京都では蟠川虎三知事（革新）、高山義三京都市長（保守）。

当時は日教組の力が強く、又全学連といった過激派集団が暴れ少々荒れていた時代でもあったのかな。又、メーデー等（自治会・新聞部・社研等が参加）は現在の形だけの祭ではなく、市役所前などのメインの場所ではスクラムを組んでジグザグ行進をして、時には、警備当局側と衝突して負傷者や逮捕者も出るという激しいものだった。

一方娯楽面では映画の全盛時代で、京都には大映・松竹・東映といった撮影所もあり、東の新京極に対して西陣京極・千本通りには映画館も七、八館もあって賑やかな校区でもあった。石原裕次郎の「太陽の季節」もこの頃だったと思う。又現在の「カラオケ喫茶」ではないけれど、会場の客が全体で合唱するという歌声喫茶「炎」（四条河原町西北側）というのが出てきたのもこの頃かな。

さて、山城高校に関して言えば制服があったとは言え、さして厳しいといった事でもなく公立高校としては比較的自由な校風で、今の様ないじめや暴力もなく平和な良き高校生活だったと言える。校内食堂ではパンやうどんが三時限目位に満席になり、早弁は当たり前だが、学内には生徒会活動には一般的に無関心で自治会役員選挙と言っても立候補者もなく、立会演説会はあっても、各役員一人で信任投票で決定といった状態。

行事的には文化祭・体育祭は勿論、ボート大会（瀬田川）、陸上記録大会・ソフトボール大会。文化祭には各クラブの活動発表を教室等で色々な展示PRをしたり、学芸会には祇園の華頂会館であったり、校庭でフォークダンスもあり、結構活動的ではあった。

又、夏の選抜高校野球には地方予選にも関わらずバス二台をチャーターして西京極球場へ吹奏楽部や有志による応援団をに

わか結団し、二回戦惜敗とは言え、「フレー・フレー・ヤマシロ・エイツ・エイ・オー」と拳を振り上げ、伝統ある立命館高に負けない程の応援合戦を演じた事もあった。

そして体育部としては、バスケット部男女・サッカー部や一部の個人競技でも国体や高校総体等の全国大会出場といった全国レベルの活躍もあり、一方、勉強面でも国立大学現役合格者は府内で洛北・鴨沂に次いで多く、東大一名、京大二十名他国立数名と言った様にまさに文武両道といった三中の伝統を受け継いでいたと言える。誇りある山城「ありがとう」と言っておきたい。

九思会の今後の発展を祈り、その会の名前の意味を紹介しておこう。

九思会の語意

「九思」は論語李氏篇にあり、君子が心がけ、注意すべき九つの点について述べたものです。

孔子曰、君子有九思^ニ視^{ハヒ}思^{ハヒ}明^ヲ聰^{ハヒ}思^{ハヒ}聰^ヲ色^ヲ思^{ハヒ}温^ヲ貌^{ハヒ}思^{ハヒ}恭

言^{ハヒ}思^{ハヒ}忠^ヲ事^{ハヒ}思^{ハヒ}敬^ヲ疑^{ハヒ}思^{ハヒ}聞^{ハヒ}忿^{ハヒ}思^{ハヒ}難^ヲ見^ヲ得^ヲ思^{ハヒ}義^ヲ

すなわち

視には明（外物には蔽われないで明らかならんと思う）。

聰には聰（さとい）。

色（顔つき）には温（おだやか）。

貌（すがた）には恭（うやうやしい）。

言には忠（まごころ）。

以上までは「身」につき、以下「事」について述べている。

事（物事をする）には敬（を専一にする）。

疑には問（人に問う）。

忿（いきどおり）には難（わざわいの自己周辺に及ぶことを思う）。

得（利益を得る）には義にあうか否かを思う。という意味です。

（木下光雄先生註釈）